**スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教えの力**

2011年2月20日

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会

スワーミー・メダサーナンダによる講話

於・逗子協会

　今日の講話のテーマは「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教えの力」です。これは、「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教えがどのように私たちに力を与えるか」ということであり、私たちの人生に関わりのある大切なことだと考えています。

**言葉と教えの違い**

　「言葉(words)」と「教え(message)」の違いは何でしょうか。私たちは多くの言葉を話します。多くの学者がいろいろな本を書き、人を啓発するスピーチをする人も数多くいます。しかし、これらは単なる言葉であり教えではありません。では、教えとは何なのでしょうか。

　教えとは悟りの結果であり、教えを説く人の人生に沿っていて完全に調和したものでなければなりません。また、教えには、時を超越した普遍の価値、他者への影響力、吸収しようとする人を変える力が備わっている必要があります。これらは、教えが説かれた時だけでなく、その後も何十年と変わることなく教えが持ち続けなければならないものです。これが、真の教えの特質です。

　だから、クリシュナやブッダ、ムハンマド、イエス、ラーマクリシュナ、ヴィヴェーカーナンダらの教えについて話をする意味があるのです。彼らの教えは彼ら自身の悟りに根ざしたものであり、彼らが送った人生と矛盾がありません。普遍の価値、永遠の価値を持ち、人びとを変えてしまうほど大きな影響を与えるものです。教えが説かれた時と場所だけで通じるのではなく、いかなる時代、いかなる場所でも通用します。クリシュナ、イエス、ブッダなどははるか昔の時代の人ですが、彼らの教えは歴史や社会の移り変わりに関係なく数え切れない人びとに影響を与え続けており、人びとは彼らの教えからインスピレーションを得ているのです。

**教えを理解する**

　優れた学者や講演者が知性に満ちたテーマのもとに行う深遠なスピーチに、興味を持って耳を傾けたものの、しばらくしたらスピーチの内容を忘れてしまうということがあります。これは、語られた言葉が深い悟りから生まれたものでないからです。ロマン・ロランは、フランスの有名な学者、作家、思想家、人道主義者であり音楽に造詣も深いのですが、日本にシュリー・ラーマクリシュナとスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教えを初めて伝えたのは彼でした。1930 年にロランの執筆したシュリー・ラーマクリシュナとスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの伝記が日本語に翻訳されたのです。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの伝記の中でロランは、「彼の言葉は偉大な音楽であり、そのフレーズはベートーヴェンのスタイル、心をかき立てるそのリズムはヘンデルの合唱曲のようだ。彼の言葉に触れると、体に電流が走ったかのような興奮を覚えずにはいられない」と書いています。これは、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの没後三十年してロランが記したものです。

　ロマン・ロランは英語を話せなかったので、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダが英語で語った言葉を、ロランの妹が彼のためにフランス語に翻訳しました。この翻訳を読んでロランは「衝撃」を受け、その衝撃に突き動かされて力強く美しい伝記を執筆したのです。もしロランがヴィヴェーカーナンダの言葉を原語である英語で理解することができたら、彼の著作はいったいどのようなものになっていたでしょうか！ロランはこのように述べています。「この英雄の口から燃えるような言葉が発せられたとき、どれほどの衝撃が生まれたことだろうか！」

　スワーミージの教えからインスピレーションを与えられたのは、インドの人びとだけではなく西洋にも数多くいました。その中には、偉大な哲学者や作家、科学者、社会的指導者、愛国主義者、人道主義者などさまざまな人がおり、もちろん信者や普通の人びともいました。『Western Admirers of Ramakrishna, Vivekananda, HolyMother and other Disciples』という本に、西洋の人びとがシュリー・ラーマクリシュナやスワーミー・ヴィヴェーカーナンダらに影響を受けた様子が記されています。この本は、HollywoodVedanta Society のGopal Stavig氏が多くの調査に基づいて執筆したものであり、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダに多くのページが割かれています。

**霊性を鼓舞する不朽の教え**

　スワーミー・ヴィヴェーカーナンダが著書やスピーチの中で説いた教えは、世界中に広まっており、特に重要な本が二冊あります。一冊は、ヴィヴェーカーナンダの手紙をまとめたもので、人びとに個人レベルで直接語りかけているものであり、インスピレーションを与える素晴らしい言葉が記されています。もう一冊は、ある弟子がスワーミージとの会話を記録したものです。この二冊はインスピレーションに富んだ素晴らしい本で、インドでは作家、科学者、宗教指導者、政治指導者、社会改革者など多くの偉人らが影響を受けています。

　実際に、19世紀末～20世紀初めのインドにおいて、高い地位にある指導者でスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの影響を受けなかったという人はほとんどいないと言えます。彼の教えに鼓舞されて、多くの若者がインドをイギリスの支配から解放するために自らの生涯を捧げました。今日でも、若者を中心とする何百万もの人びとが彼にインスピレーションを受け、人類に奉仕するため、あるいは神のために生涯を捧げています。

　『The Times of India』は、多くの発行部数を誇るインドの有名な新聞ですが、今年の1 月8 日に『ナレン、誕生日おめでとう』というタイトルでスワーミー・ヴィヴェーカーナンダに関する記事を掲載しました。(ヴィヴェーカーナンダの俗名はナレンドラナートでした。) 記事の著者は六十代で、ヴィヴェーカーナンダの教えを数多く引用し、それらの教えに若い頃からどれほど影響を受けてきたか、失敗や危機に直面した時どれほど支えられたか、また自らのビジョンや人生の目的に教えがどれほど役立ったかを述べていました。

　『Talks with Swami Vivekananda』という本は、先ほどお話しした、弟子とヴィヴェーカーナンダとの会話をまとめた本ですが、この本の中で弟子はこう言っています。「スワーミージ、あなたから言われると、私に不可能なことなどないと思えます。」ヴィヴェーカーナンダの弟子らは、ヴィヴェーカーナンダに「君は偉大だ！」と言われると自分は本当に偉大だという気持ちが大きくわき上がるのを感じたと回想しています。これが、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教えの力なのです。私自身も、人生の岐路に立たされたとき、ヴィヴェーカーナンダの教えは支えとなり、教えから大きなインスピレーションを受けました。ですから、私のお話ししていることは、私が信じていることではなく実際に経験したことなのです。

**ヴィヴェーカーナンダの教えの特徴**

　スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教えには四つの特徴があります。それは、力強いこと、前向きであること、深いこと、そして霊的であることです。現代人は概して、もろく神経質です。小さな失敗をしたり少しの問題が生じたりしただけで、我慢が出来なくなります。人生は常にバラ色なわけではなく、成功するとは限らないし願いがかなうとも限らない、ということを私たちは理解していません。成長と共に、人生にだんだんと期待していくようになります。

　親も学校も社会の指導者も、人生には失敗や問題、落胆がつきもので、進んでいくのは大変だから覚悟が必要だということを教えてくれません。結果的に私たちは否定的になり、人や物事の悪い面ばかりを見るようになります。表面的なことに気をとられ深く考えることをしなくなり、世俗的な傾向が強くなります。日本について言えば、今日この国が抱える社会的問題、精神的問題は、1868年の明治維新が原因でしょう。近代化により多くのメリットを享受しましたが、一方では西洋文明を盲目的に模倣するなどのデメリットもありました。そのため、武士道を始めとする素晴らしい伝統を日本は失うことになりました。

　国家の近代化の過程で、神道が重視され仏教は故意に弱体化されました。仏教の精神的伝統の衰退と共に、日本社会は著しく世俗化し、よりどころを失ったのです。第二次世界大戦後、日本は荒廃から徐々に復興し一大経済国家へ成長しましたが、同時に、アメリカ文化の安っぽい面ばかりがこの国に根ざしてしまいました。だから、多くの霊的伝統が失われ世俗性がはびこったのです。

　スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの教えとその力強さ、前向きさ、深さ、霊性は、現代の日本人にどのように役立つのでしょうか。まず、人生の目的や目的を達成する方法について考えて見ましょう。今日最も大きな問題の一つは、方向を見失っていることです。人生の目的、ゴールとは何か。ヴィヴェーカーナンダは、人生の目的とは自己の内にある神性を表すことであるとはっきり言っています。それにはどうすればいいのか。自分の内的な性質と外的な性質をコントロールするのです。そうすることで、永遠の平安、喜び、叡智、自由を得ることができます。

　次の問題は、ゴールは分かっていてもそこに到達しようという強固な意志がないことです。ヴィヴェーカーナンダは、さまざまな方法で私たちのやる気を引き出そうとしています。彼の有名な言葉があります。「立ち上がれ、目

覚めよ。ゴールに到達するまで立ち止まるな。」

**弱さと向き合う**

　さらに、今の私たちの心が弱く神経質であることも問題として挙げられます。自分の弱さをくよくよと考えていると、ますます心は弱まり、悪循環が生まれます。サルは小さな傷を負うと、気にして傷をいじるため傷口に炎症が起こり遂には死に至ることがあります。問題や失敗、過ちをいつまでも考えていても、状況は悪化するだけです。

　スワーミー・ヴィヴェーカーナンダのアドバイスは、こうでした。「友よ、なぜ泣いているのか。君の中には無限の強さと力があるではないか。それを現したまえ。」そして、こう言いました。「強さは生（せい）であり、弱さは死だ。」さらに続けます。「弱さを克服するには、弱いことをいつまでも考えるのではなく、強さを考えることだ。」実践的な素晴らしいメッセージです。そしてこう言います。「自分を信じること、神を信じること。これが偉大さの秘訣である。」

　私たちは自分の失敗や間違い、すなわち「罪」を大変心配し、そこから生まれる悪いカルマを恐れています。そのため、こうなるのは運命だから仕方ないとあきらめたり悲観的になったりします。スワーミージは言いました。「君たちは神の子供だ、罪人などではない。君たちは、完全で神聖で純粋なのだ。人を罪人と呼ぶことが罪なのだ。」

　人は皆、仕事や家族など自分を取り巻く環境でさまざまな問題にぶつかります。しかし、問題と向き合って解決しようとせず、ただ逃げようとすることが多いものです。このような現実逃避は非常に危険で、いったんは逃げ出せても後から問題が何千倍にも大きくなって戻ってくるのです。

　これに関することで、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダが実際に経験した、非常に有名な出来事があります。シュリー・ラーマクリシュナの没後、スワーミージは遍歴僧となりあちこちを放浪しました。ベナレスにいたとき、ドゥルガー女神を祀るある寺院の中や周囲にたくさんのサルがいました。ハヌマーンを祀る寺院も近くにありましたが、そこにはもっとサルがいました。あるときヴィヴェーカーナンダがそのあたりを通りかかると、何匹かのサルが彼を追いかけ始めました。そのような状況にあれば誰でもそうするでしょうが、ヴィヴェーカーナンダは大変怖くなって走り出しました。すると、それを見ていた一人の高齢の僧が、「走らないでサルに立ち向かいなさい」とスワーミージに大声で叫びました。スワーミージはこのアドバイスを聞いて我に返ると、振り返り、追いかけてくるサルたちに怒りを露わにした姿勢で立ち向かいました。これに驚いたサルたちは、慌てて逃げていきました。

　スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは、後で何度もこの出来事に触れ、信者らに「獣に立ち向かえ」、すなわち問題から逃げることなく向き合うよう勧めました。また、失敗したり過ちを犯したりするのは当然のことだから決して気にしてはいけないとも言いました。「千回やって失敗したら、もう一回やればいい。」非常に前向きで楽観的です。つぎの一回で成功するかもしれないのです。「牛は決して過ちを犯さないが、牛のままだ。人間は過ちを犯すが、完全になることができる。」成功するには、強大な意志の力、粘り強さ、忍耐力が必要なのです。

　また、私たちはあまりに自己中心的であるのも問題です。そこに不幸の根源があるのです。「私の体」「私の気持ち」「私の家族」「私の仕事」と、全世界が「私」に限定され低められています。スワーミージは、平安と幸福を最も確実に得る方法は他者のことを考えることだ、とアドバイスしました。他の人のことを考えれば考えるほど自分のことを考えなくなります。しかし、現代社会の風潮では、自分のことをますます考えるようになっています。そのため執着心や束縛が強くなり、緊張と不安でいらいらし、幸せから遠ざかっていきます。しかし、他者を思いやり、他者の幸福や福祉を考える人は平安と喜びを得、周囲にも平安と喜びを与えて調和を生みます。スワーミージがこれを簡潔に素晴らしい言葉で表現しています。「私心のないことは神である。」

　問題が起きると、カウンセリングを頻繁に受けることがありますが、問題が起きる前に受けたらどうでしょうか。また、健康で精神的な強さがあれば、カウンセリングの必要はないでしょう。健康を保つのに普段からサプリメントを摂取するとよいと多くの人が考えますが、同じように、私が今から提案することを普段から実践すれば、カウンセラーや精神科医、スピリチュアル・ヒーラーにかかる必要はなくなるでしょう。心の健康だけでなく、仕事や人間関係にも役立つでしょう。それは、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの四つの教えを霊的サプリメントとして取り入れ、時々思い出して繰り返し唱え、深く考えてみてください。一つ目です。「私は純粋です、純粋です、純粋です。私は神聖です、神聖です、神聖です。私は、この神の性質を現さねばならない。」二つ目です。「強さは生（せい）であり、弱さは死だ。弱さを克服するには、弱いことをいつまでも考えるのではなく、強さを考えることだ。」三つ目です。「私は頑張って努力し、闘う。失敗や過ちなど気にしない。ゴールに達するまで闘う。」そして最後の一つです。「私心のないことは神である。平安を得る最良の方法は、自分のことではなく他者のことを考えることだ。」